



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長

細谷 俊夫

幹 事 伴

誠

会報・雑誌委員長

床井 光雄

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3065号 2024年10月15日(晴れ) 第15回例会 会員数99名

ハイブリッド例会



点 鐘 細谷会長
司 会 副SAA 杉本会員

◇ロータリーソング「我等の生業」

◇本日のランチ チキンカレー サラダ 薬味



ビジター紹介 片嶋副会長

◇米山記念奨学生 何 泰尼 (カジエー) さん



会長挨拶 細谷会長

皆さん、こんにちは。10月は、日本独自の特別月間テーマである、米山月間です。この月間は、米山記念奨学事業の意義を深く認識し、寄付金を募る活動を行うことを目的としています。米山月間は、ロータリークラブが、国際親善と世界平和に寄与するための、重要な取り組みの一環です。なぜ10月が米山月間かと言いますと、1975年8月、米山梅吉翁が逝去した4月28日までの1週間を「米山週間」とすることが決定しました。ある地区ですで行われていた強化活動を全国に広げ、米山奨学事業を促進することが目的でした。しかし1980年度になると、米山週間は4月から、10月1~7日へと変更されました。その理由はいくつかありますが、東京ロータリークラブによる米山基金から日本全地区クラブの共同事業とする決議や合意が行われた地区大会が、いずれも10月だったこと、これが大きな理由とされています。1983年からは、週間制度が「月間」となり、10月が米山月間として定着し、今にいたっています。

今日は、米山記念奨学生のカ・ジェニーさんの卓話があります。ジェニーさんの上手になった日本語で、卓話を楽しみたいと思います。ジェニーさん、卓話をよろしく願います。

◇奨学金の授与

米山記念奨学生 何 泰尼 (カジエー) さん



幹事報告

伴幹事

◇レターBOXにガバナー公式訪問写真の配付。

◇地区より能登半島豪雨災害義援金をお願い募金箱を各テーブルに回します。今月中、例会時に募金箱を回しますのでご協力。



委員会報告

◇スマイルボックス委員会

中山委員

片嶋常隆会員

長男の子供が生まれました。3月に長女の子が生まれたので、半年の間に孫が2人になりました。



卓話

米山記念奨学生 「近況報告」



米山記念奨学生 何 泰尼 さん
皆さん、こんにちは。今日はよろしく願います。

— パワーポイントにて説明 —

はじめに、自己紹介です。出身は台湾の台北で、故郷は北投区です。今は、文星芸術大学の4年生で、デザインを専攻しています。趣味は、ダンス、アウトドア系、ファッション等です。4人兄弟の2番目です。中学校から高校の6年間、バレーボー

ルをしていました。バレーボールを通して、沢山のことを学び、成長しました。また、ビーチバレーもしました。二人で広い範囲を守る、頭を使うスポーツです。私は、バレーボールよりもビーチバレーの方が好きで、先日故郷に帰った時も、友達と一緒に試合に出ました。

※ご家族や学校の写真を紹介

父の仕事についてお話いたします。祖父がもと蘭の仕事をしていて、1997年頃には、イベントや展覧会のビジネスで、よく福岡に行っていました。祖父は日本と台湾の懸け橋をしておりました。父も同じ仕事をしております。日本では、東洋蘭の春蘭や恵蘭が流行っていますが、父は栽培と開発に携わっております。今週、東京で開催される東洋蘭の展示会を見にくるとのことです、私も一緒に行こうと思っています。

趣味についてお話いたします。昔はずっとスポーツをしていたので、自分の好きなことをする時間がありませんでした。日本に来てから、いろいろなことをやってみようと思いました。ダンスが好きなので、宇都宮に来た時に、コネクトダンススタジオに入りました。皆優しく、とても楽しいですが、ダンスもバレーボールと同じで、練習しないと成長は出来ないと感じました。発表会があるので、頑張って練習したいと思います。私のストレス解消方法は、海に行くことです。宇都宮は海がないので、茨城の大洗によく行きました。海で、何もしないで目を浴びるのはとても良いです。日本に来てから、ファッションモデルも経験しました。良い経験でした。

— モデルをした時の映像を流す —

次に故郷の紹介をします。北投は台北駅から約30分で、降りてすぐ温泉があります。北投は硫黄温泉がとても有名で、1年に1回温泉祭りがあります。日本人も多いです。おじいちゃん、おばあちゃん達は、日本語をしゃべることができます。また、木を使って建てられた図書館が有名で、子どもの頃からそこで勉強しました。涼しかったです。懐かしいのは、お店でビニール袋に入れて飲む飲み物です。お茶など袋に入れて、そのままストローを差して飲みます。

台湾の面白い話をします。台湾に「乖乖」というスナック菓子があります。「乖乖」は、子どもを褒める「いい子、いい子」という意味がありま

す。「乖乖」を機械のそばに置くことは、機械が正常に動いてほしい、という気持ちが込められています。袋の色は3種類ありますが、機械が正常に動いている時に緑のランプが点いていることから、機械のそばに置く「乖乖」の袋の色は、緑でなければいけません。食べるものだけど、皆が食べないお菓子の話でした。次に、レシートの話です。台湾のレシートは宝くじになっていて、2か月に1度抽選があります。レシートの番号が当たるとお金が貰えるので、捨てないで大切に持っています。商品の透明性を促進するこの制度は、台湾の文化の一部となり、人々の日常生活の楽しみの一つにもなっています。

次は私の卒展制作について話したいと思います。台湾のダサイところをかつよく見たい、というのがテーマです。台湾の面白いところ、皆が気付いていないところ、旅行する時にもあまり気にしていないところを意識して、作品を作っています。台湾の有名な食べ物や建物より、皆が気づかないようなところを題材にしています。

※平面図や作品を写真で紹介

最後に、日本に来て感じたことをお話いたします。全部お酒に関わることです。日本では、食事とお酒が一緒に出ますが、台湾ではそういうお店は少ないです。台湾では、食べてからバー等に行きます。ですから、最初、食べながらお酒を飲むことが凄くショックでした。ビールの入れ方も、台湾と日本ではだいぶ違うと思います。また、日本では、夜は居酒屋やバーしかありません。台湾では夜市があり、夜の10時から朝の4時まで若い人がでています。夜市や公園や川の近くに集まる人が多いです。以上が日本にきて感じたカルチャーショックです。今日の発表は以上です。ご清聴ありがとうございました。

